



みんなの回生

題字揮毫
元県知事・前川忠夫



- 新年のご挨拶 理事長・病院長・副院長兼看護部長 2
- こころの健康に向けて 3
- 感染対策は、生活習慣であり、 4・5
ひとりひとりができるように
- 災害への対応（第2回） 6・7
- 皆様からのご意見の紹介 8

回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報を保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

2021年
295号



社会医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院
坂出市室町三丁目5番28号
回生病院ホームページ <http://www.kaisei.or.jp/>

☎ 0877 (46) 1011 (代)
夜間の受付も行っていきます。

新年のご挨拶

理事長 松浦 一平



新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は新型コロナウイルスが世界的に猛威をふるい、多くの方が犠牲となっております。日本国内でも昨年4月の第一波、8月の第二波に続き、11月頃より新規感染者数が急激に増加し、感染拡大防止のため人との接触を極力避ける方向へシフトしていきました。その結果、働き方も変わって来たように感じています。残念ながら2020年の東京オリンピックは延期が決定しましたが、同時にテレワークを導入しての働き方改革が、このコロナをきっかけに猛スピードで浸透していったように思います。私もリモート会議を何度か行いましたが、個人的に興味津々だったので、実際に経験できて良かったです。元の世界には戻れないだろうと予想されるアフターコロナではあります。世間の状況に合わせ、柔軟に新しい働き方を模索する必要があります。ワクチンの開発により明るい兆しもあるようですが、コロナ終息にはまだまだ時間がかかりそうです。当院は感染症指定病院ではありませんが、入院患者さんや当院を利用される方が安心して受診していただけるよう万全の予防対策を行っています。しばらくの間、関係者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

少子高齢化に加え、今回のコロナ感染症により我が国の財政状況は厳しい局面を迎えると同時に病院経営を取り巻く環境はより厳しくなると思われませんが、引き続き質の高い医療を地域住民の方々に提供すると同時に、行政や介護との連携をこれまで以上に密にしていきたいと考えています。また地域の中核病院をはじめ、診療所の先生（かかりつけ医）や施設関係者の方々とより密接な連携をとり、患者さんをはじめ地域の住民の皆さんが、住み慣れた地域で安全・安心して暮らせる地域作りを全力を注いでまいります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

新年のご挨拶

病院長 杵川 文彦



新年明けましておめでとうございます。昨年中、当院に賜りました数々のご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。

さて、令和になってから早くも2回目のお正月を迎えました。昨年と異なっており、今年も新型コロナウイルス感染症の流行もあり、何か今までは違った緊張感をもって年を越しています。

今年も昨年同様、昨年生まれの人は最後までやり切らないと気が済まない努力家が多く働き者であるということ。また、丑年は今までにない新しいことが始まった年が多いのも特徴のようです。昨年は午後の総合外来を開設し、今まで十分に対応できていなかった午後の内科診療が可能になりました。循環器内科では主に下肢の血管造影を行うことで慢性動脈閉塞症の診断と治療に力を入れています。今年も昨年新しく始めた試みを定着させていく年にならうと考えています。牛の歩みも千里といいますが、後戻りしないように着実に進んでいきたいと思っております。

新型コロナウイルスに対しては院内での検査が可能となり、感染の疑いのある患者さんに対して適宜検査を行っています。世界的な感染の終息を望みつつ、こちらについても引き続き臨機応変に対応していきたいと考えています。なお、手術や内視鏡検査を受けられる方に対しては特に感染対策を厳重に行っています。ご容赦の程よろしくお願いたします。

不安な要素の多い昨今ですが、コロナウイルスに振り回されることなく、日常の診療につきましても今まで以上に充実させていく所存です。災害拠点病院としての機能も引き続き維持していきたいと考えています。

本年も昨年同様ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

副院長兼看護部長 南原 愛子



新年明けましておめでとうございます。今年が皆様にとって幸多き年になりますように心よりお祈り申し上げます。

昨年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定でしたが、世界規模の新型コロナウイルスの感染拡大により延期となりました。今年も開催されるでしょうか。ワクチンが開発されて、新しい様式のもと、日常を取り戻せているでしょうか。少しでも早い収束を願ってやみません。

さて私事ですが、七月に看護部長となり、日々の出来事報告に一喜一憂し、あっという間に六月が過ぎました。現在も手探り状態ながら、課題解決に取り組んでいます。臨床現場をみて、スタッフの声を聴き、患者様やご家族のご意見を頂戴しながら改善に繋げていければと思っております。

十一月には急性期病棟が一病棟休床となり、患者様には病棟を移動してもらおうなどご協力頂いております。看護師もそれぞれの病棟に入院される患者様の主たる科が変わったことで、新たな学習の必要性を感じております。幸いにも当院には、感染管理認定看護師をはじめがん化学療法看護認定看護師など多くの認定看護師がおりますので、彼らの力を借りて、必要な知識を得て環境を整えているところ。また呼吸ケアチームが横断的に活動を開始し、呼吸器装着中の患者様のケアの質向上に努めてきています。看護部一丸となって知恵を出し合い、前進していきたいと考えています。

看護協会は今年一月、「看護の日・看護週間」制定三十周年、ナイチンゲール生誕二百周年記念の年として「Nursing Now: 看護の力で未来を創る」をテーマにオンラインでの式典を開催します。これを機会に改めて看護の原点を考える年にしたいと考えています。

本年も皆様の変わらぬご支援・ご指導を何卒宜しくお願い申し上げます。

こころの健康に向けて



メンタルヘルス科 臨床心理士・公認心理師 天満 弥生

当院では臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが、カウンセリングや心理検査を行っています。

○カウンセリング（心理療法）

ストレスを受けて、気持ちが落ち込んだり、イライラしたり…つらい時には眠れなかったり、食欲がなくなることがあります。症状が続き、こころの悩みが消えてくならない時に、カウンセリングが役に立つことがあります。

カウンセリングでは、こころの悩みについてじっくりと話を聴かせていただきます。カウンセラーは話を聴きながら、心理学の知識や技法を用いて、理解し気づいたことをお伝えします。このような話し合いを通して、困難を引き起こしているパターンや人間関係の持ち方、考え方の癖などを見つけていきます。時間はかかりますが、気づきを通して、自ら不安への対処ができるようになり、こころの健康を取り戻していくことを目指します。

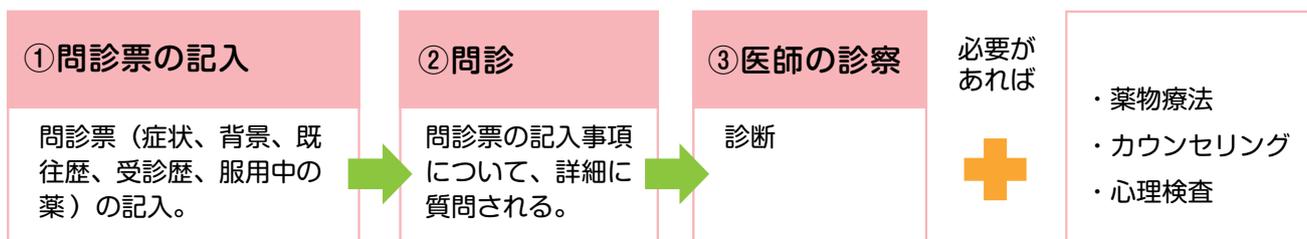
○心理検査

ストレスの原因は思い当たらないのに症状が続くなど、こころに悩みを抱えている時は、自分でも自分のことがよく分からないということがあります。そのような場合、心理検査を通して自分自身のことをよく知り、理解を深めることで、困っていることの改善に役立て、悩みを軽くできることもあります。心理検査にはいろいろな種類があり、ご本人の悩みに合わせて、検査の種類を決めて行います。

○当院でのカウンセラーによる相談の流れ

当院でカウンセリングや心理検査を希望する場合、まずメンタルヘルス科を受診していただきます。初回時に問診で相談内容（症状や問題）、経緯、背景等をおうかがいします。問診から得られた情報をもとに精神科医が診察をし、カウンセリングや心理検査が役に立つと判断した場合、カウンセラーへ紹介されるようになっていきます。症状によってはカウンセリングよりも薬物療法が有効で、医師による診察のみの方が良い場合もあります。

—— メンタルヘルス科受診 ——



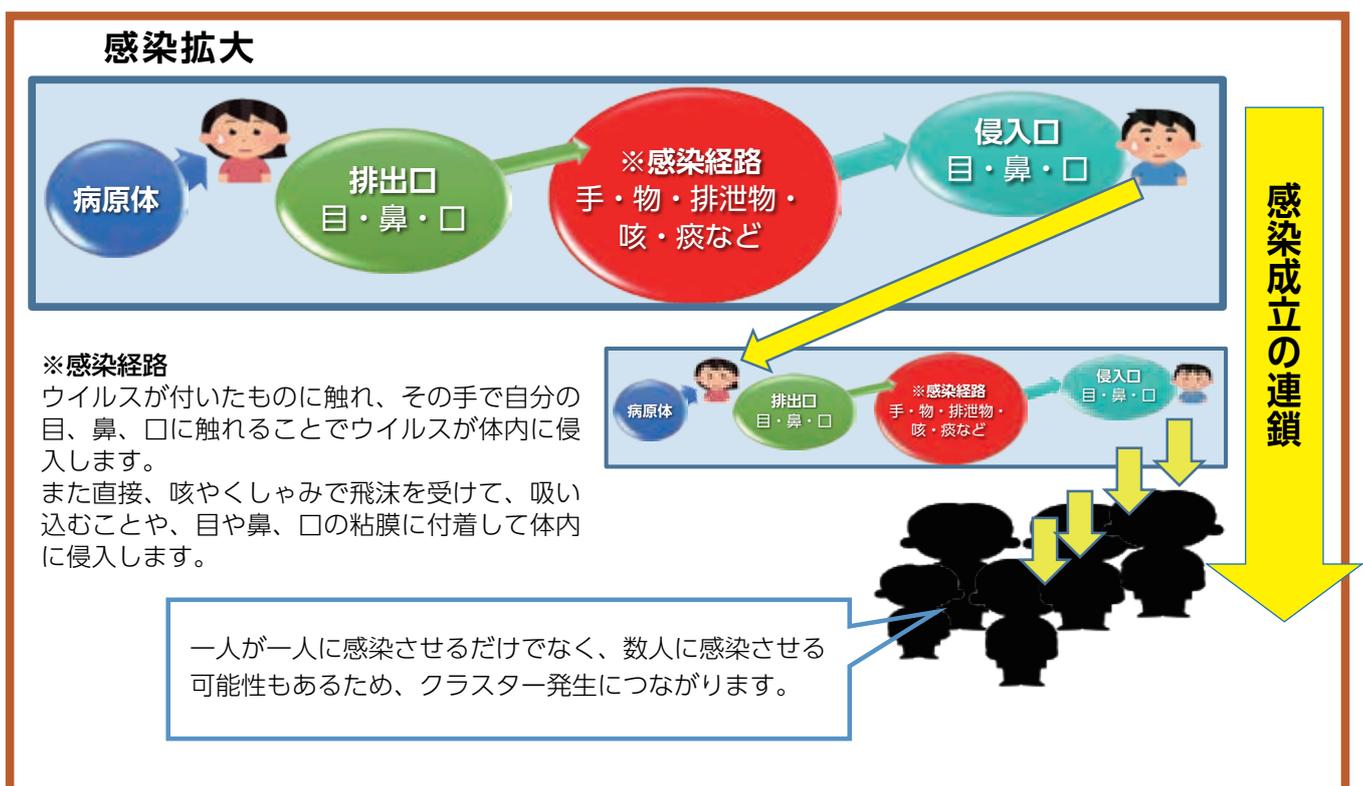
感染対策は、生活習慣であり、 ひとりひとりができるように



感染管理認定看護師 田所 笑美子

2019年12月、中国から新型コロナウイルス感染症の報告があり、2020年はまるごと新型コロナウイルス感染症に悩まされました。2021年を迎え、東京オリンピックをはじめ、様々なことを予定どおり楽しむことができることを切に願います。感染症の歴史は長く、世界中で感染拡大するパンデミックは、幾度となく繰り返されています。また、エボラ出血熱、SARS、MARSなど高病原性感染症も見受けられます。新しい感染症はワクチンがなく、薬もないため、手探りの状況で治療をせざるを得ません。しかし、感染予防は、いつの時代も、どんな感染症であっても必要不可欠です。とくに、子どもや高齢者、持病をもつ方など、感染症によって重症化するリスクのある人たちを守るためにも、すべての人が感染予防に努めていく必要があります。

感染拡大は「感染成立」の連鎖が続くことで発生します。感染は、病原体（ウイルス、細菌など）、感染経路、感染を受ける人が揃うことで成り立ちます。感染成立を止めるには、**感染経路を遮断**することが最も重要です。感染経路は、人の手が一番多いとされています。インフルエンザやコロナウイルスのように咳などと一緒に飛散することで感染する場合は、ウイルスを出さない、受け取らないことが大切で、そのためにマスクやフェイスシールドをつけます。しかし、ウイルスが付いたマスクやフェイスシールドに手が触れ、その手のまま、テーブルやドアノブなど他の人と共有する物に触れることで、その表面が汚染され、感染成立につながる可能性があります。したがって、**手洗い、よく触れる共有物をこまめに清浄**することが重要です。



感染経路を遮断



手洗い

食事の前後 トイレの後
訪問先への出入り
帰宅後



他人と共有する物で手がよく触れるところは、こまめに拭きとりましょう。



目ヤニ、鼻汁、痰、吐物、排泄物、血液など他人の体液は、どんな病原体が潜んでいるかわからないと思って取り扱しましょう。どのような経路で自分の体内に侵入するかわかりません。触れた可能性がある時は流水と石けんでよく手洗いをしましょう。

コロナやインフルエンザは、マスクで予防



マスクは、正しく着けましょう。鼻からあごまでをしっかりと覆う、顔の大きさにフィットするサイズを選びましょう。



マスクは、布の前面後面が汚染されているので、なるべく触れないようにしましょう。食事の時は、マスクケースや袋など一時的に保管する方法を決めて、テーブルに直接置かないようにしましょう。

免疫力アップ



ウイルスが体内に入っても重症化しないよう、ウイルスに抵抗する免疫力をつけておくことも重要です。食事、睡眠、リラックスなどに気をつけて、免疫力をアップさせましょう。

室温・湿度・換気



冬季の低い気温はウイルスが生存しやすく、低い湿度は、目鼻のどの粘膜が乾燥し、ウイルスが粘膜から体内に侵入しやすい状況をつくります。

室温、湿度、換気を適度にコントロールすることで、感染リスクを低減していきましょう。

室温：20～25℃、湿度：40%以上を目安にしましょう。

3密（密閉・密集・密接）と言われるように、締め切った室内でも感染リスクは高まります。寒い時期ですが、こまめに換気して新しい空気に入れ替えましょう。



冬は、コロナウイルスに限らず、インフルエンザやノロウイルスなどの感染性胃腸炎も流行しやすい時期です。一人一人が感染対策を日常の習慣として、様々な病原体に負けない生活を送れるようにしていきたいものです。

◎発熱や風邪症状がある場合の受診は、あらかじめお電話をいただいたうえで、予約制となります。

◎地域の流行状況によって面会制限をしています。当院ホームページ、玄関掲示、院内掲示ポスターでご確認いただけます。

回生病院では、地域、近隣の施設、行政機関と情報共有を行い、感染対策に努めております。

当院をご利用される皆様には、日頃よりご協力いただき感謝いたします。また、感染症の流行状況によっては、急遽ご案内内容が変更になることがあります。皆様には、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



災害への対応（第2回）



副院長 兼 災害管理室長 関 啓輔

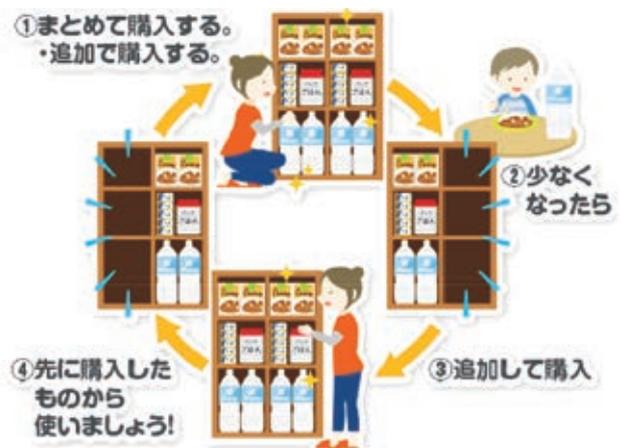
前回、ハザードマップの活用・市区町村が出す警戒レベルと避難について、掲載させて頂きました。今回は、災害に備えた備蓄や緊急避難時の非常持ち出し品について述べさせて頂きます。

まず家庭内での備蓄についてです。水については、一人1日3ℓ×7日分、つまり一人当たり21ℓの備蓄が推奨されています。そのほかに、断水時の生活用水(洗濯や水洗トイレ用)として、風呂の水を貯めておくことも有効です。備蓄用食料としては、表1を参考にして下さい。消費期限を考慮して、図1に示したローリングストック法で、日々の消費サイクルに組み込んだ食生活を行い、食品ロスを無くしましょう。表2には、食料以外の備蓄品を示しています。カセットコンロや蓋付きフライパンなどは、ガスの供給がない時の調理に役立ちます。新聞紙とラップは、断水時の食器として、図2のようにして利用できます。

表1 備蓄用食料

- ・米・もち
- ・めん類(乾めん、スパゲッティ、インスタントラーメン)
- ・粉物(小麦粉、ホットケーキミックス)
- ・レトルト食品(おかゆ、α米、カレー)
- ・缶詰
 - (サケ・サバ・あさりの水煮)
 - (ツナ・コンビーフ)
 - (大豆・トマト)
 - (くだもの)
- ・汁物(インスタント味噌汁・スープ)
- ・乾物(のり・わかめ・ひじき)
- ・菓子類(チョコレート・ドロップ) など

図1 ローリングストック法



<http://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/02suishin/01kouhou/izumikuban/h28kouyoko/3-28/topics1.html> より引用

表2 食料以外の備蓄品

- ・カセットコンロとボンベ、蓋付きフライパンや鍋
- ・ヘッドライト、ヘルメット、懐中電灯、LEDランタン
- ・電池
- ・携帯ラジオ
- ・ロープ、ガムテープ
- ・簡易トイレ、携帯用トイレ
- ・皮手袋、歩きやすい運動靴、マスク
- ・ポリ袋、ラップ、新聞紙
- ・救急セット、常備薬、個人治療薬
- ・ウェットティッシュ、手指消毒薬

図2 断水で洗い物ができないとき



図3に示したような、1週間を想定した食事の工夫と備えをしましょう。

皆様からのご意見の紹介



ご意見①

入院して1ヶ月経ちますが、先生によって回診がないときがあります。回復状況が分からず、不安です。

【回答】

この度は、不安な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。ご家族には患者様の状態を面会時等に情報提供し、少しでも不安の軽減に努めたいと思います。ご意見ありがとうございました。

ご意見③

9時に病理結果を聞くため、予約して会社を休んできているにも関わらず、10時30分まで待たされ、こちらが言うまで謝罪も理由説明もない。ストレスで病気になりそう。

【回答】

この度は、こちらの不手際で、ご迷惑、ご不快な思いをおかけし、誠に申し訳ありませんでした。関係職員の認識に誤りがあり、改めて指導を行いました。

ご意見②

MRI にスリッパ、丸椅子を置いてほしい。

【回答】

この度は、配慮不足があり、申し訳ありませんでした。ご利用頂く更衣室内が狭いこと等もあり、スリッパや椅子の常時の設置はしておらず、職員の声かけでお知らせをしていました。このご意見を機に、更衣室内に【スリッパ、丸椅子が必要な方はスタッフまでお声がけください】との掲示をしました。職員の声かけも継続して行い、検査を受けられる方に遠慮なく希望を申し出て頂けるように努めたいと思います。ご意見ありがとうございました。

おほめの言葉

看護助手さんの行動範囲が広いのには感心しました。食事介助、風呂・シャワー・トイレ介助等。月行事の際、声かけしてくれて楽しく過ごせました。ありがとうございます。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

ご利用の皆様からいただきましたご意見について、一部ですが、ご紹介させていただきました。

(ご紹介しているのは、2020年9月以降のものです。)

皆様からのご提案・ご指摘により気づくこと、改善の検討につながるなど多くあります。

引き続き、ご意見・ご提案を1階患者相談窓口前や各病棟ダイコーナーに設置のご意見箱、1階患者相談窓口等へお寄せください。

医療安全対策室